

|       |        |
|-------|--------|
| 策定年月  | 令和5年6月 |
| 見直し年月 | 令和〇年〇月 |

# 麦・大豆国産化プラン

産地名：小山市中地区

（作成主体：小山市農業再生協議会（中地区））

# 1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

## 【事業対象作物】

小麦

## 【現状】

- ・令和4年の作付面積は4.9ha。
- ・本年は作付面積を9.1haに拡大するが、面積拡大に伴い適期播種が困難な状況である。

## 【課題】

- ・播種適期が限られるため、作付面積拡大にあたり播種効率が悪いと湿害により収量および品質の低下が懸念される。

## 【課題解決に向けた取組方針】

### ①適期播種

- ・モアの導入により効率的に耕耘を行い、ローラー幅2.0m(7条)の播種機の導入により播種速度及び効率を向上させる。

### ②作付団地化による作業効率の向上と湿害対策

- ・作付団地化を行い、病虫害防除の効率化や周辺水稻からの農業用水侵入による湿害を最低限に抑える。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

## 2. 産地と実需者との連携方針

### 1. 連携方針

小麦の集荷事業者である全農とちぎと連携し、実需者の需要を的確に把握し、需要に応じた生産を実施する。

### 2. 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状と目標値

(産地:小山市中地区 取組の中心となる農業者: ████████ 氏)

| 品目 | 品種名     | 現状 (R4)  | 目標 (R8)  | 現状の供給先     |
|----|---------|----------|----------|------------|
| 小麦 | イワイノダイチ | 28,814kg | 53,144kg | ██████████ |

・(麦類)R5年産の県産小麦イワイノダイチにおいては、供給過剰となっているが、R6年産の需要量は増加しており、現在の生産量では需要に対応できない状況である。

JAおやま耕種部会員数はR3年3月の183名からR5年3月の165名の減少となっており、生産量を維持するため生産者の1人当たりの生産量を拡大する必要がある。

→4.2haの作付面積拡大により対応する。

### 3. 目標達成に向けた具体的な方策

農地の集約及び作付拡大により生産量の増加を図る。

また、現在点在しているほ場について生産性を高めるため地域の農業者と話し合いを実施し、団地化を推進する。

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

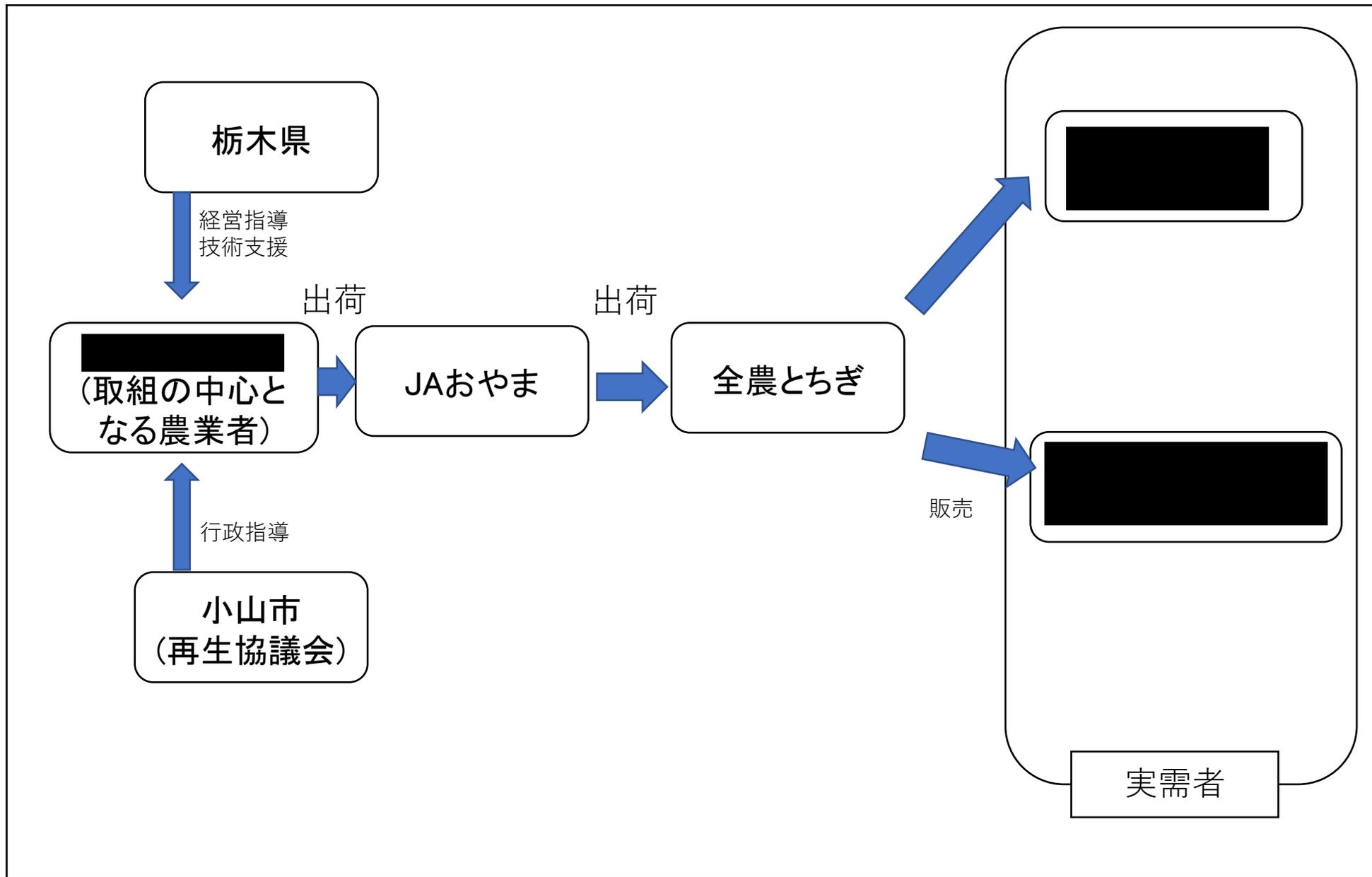
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

### 3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。